ユースサービス

YOUTH SERVICE

若者と支援者をつなぐ機関誌 VOL. 14

若者を考える、若者と考える

ユースシンポジウム 2012

若者と共に生き方をデザインする

やったぞ！ 畑のイレブン 就労のゴールは近い

～野菜づくりから仕事に近づく 14 週間～

特集 ユースシンポジウム2012 若者と共に生き方をデザインする 3
ねっとわーく 新大宮みんなの基地 7
やったぞ！ 畑のイレブン 8
本格始動！ 地域若者サポーター 10
青少年活動センターのページ ユースサービスと子ども・若者支援室 12
ユースかわら版 映像で「京都賞」受賞！ ほか 14

［表紙の花］
ボケ（木瓜）……バラ科の落葉低木。庭木として親しまれる。実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜（もけ）」から「ぼけ」に転訛したとも言われる。原産地：中国大陸。

思春期への共感

精神保健福祉士
知名純子

「何を考えているのか分からない…」「気持ちが全く理解できない」。これは思春期専門相談を担当していたときに、お母さん方が我が子について口々におっしゃっていた言葉です。相談に来られるのは、子の不登校や反抗期等に悩むお母さん方がほとんどでしたが、私自身が若かったこともあって「どうして自分の子どもの気持ちがわからないのだろう」と不思議に感じていました。お母さん方にも思春期の頃があったはずなのに、あのしんどさを忘れてしまったのだろうか？　と。

思春期独特の漠然とした不安や焦燥感、イライラ。自立したいのに出来ないもどかしい気持ち、同級生への劣等感や嫉妬の感情…。問題行動を起こしているようで、その実本人が一番悩んでいるのです。私がお子さんの気持ちを代弁すると、お母さん方は「なぜ私の子どもの気持ちがそんなにわかるのですか?!」と驚かれていましたが、当時は私もまだ20代で思春期の中に居たので、お母さん方より子どもの気持ちにより共感できたのでしょう。でも、この体験から「この先もずっと、悩み多き思春期のモヤモヤした気持ちを忘れない大人になろう」と強く感じたのを覚えています。

協会の企画委員をさせていただいている今、「もし私が学生の立場だったら、どんな企画を望むだろうか」と想像しながら会議に参加しています。そして、たくさんの思いを抱えながら、それでも頑張っているあなたを応援するために、大人の私達に何ができるだろうかと委員の仲間と考えているところです。

（京都市ユースサービス協会　企画委員）

特集 3
ユースシンポジウム2012
若者と共に生き方をデザインする

7
ねっとわーく
新大宮みんなの基地

8
やったぞ！畑のイレブン

10
本格始動！地域若者サポーター

12
青少年活動センターのページ
ユースサービスと子ども・若者支援室

14
ユースかわら版
映像で「京都賞」受賞！　ほか

思春期への共感

精神保健福祉士
知名純子

「何を考えているのか分からない…」「気持ちが全く理解できない」。これは思春期専門相談を担当していたときに、お母さん方が我が子について口々におっしゃっていた言葉です。相談に来られるのは、子の不登校や反抗期等に悩むお母さん方がほとんどでしたが、私自身が若かったこともあって「どうして自分の子どもの気持ちがわからないのだろう」と不思議に感じていました。お母さん方にも思春期の頃があったはずなのに、あのしんどさを忘れてしまったのだろうか？　と。

思春期独特の漠然とした不安や焦燥感、イライラ。自立したいのに出来ないもどかしい気持ち、同級生への劣等感や嫉妬の感情…。問題行動を起こしているようで、その実本人が一番悩んでいるのです。私がお子さんの気持ちを代弁すると、お母さん方は「なぜ私の子どもの気持ちがそんなにわかるのですか?!」と驚かれていましたが、当時は私もまだ20代で思春期の中に居たので、お母さん方より子どもの気持ちにより共感できたのでしょう。でも、この体験から「この先もずっと、悩み多き思春期のモヤモヤした気持ちを忘れない大人になろう」と強く感じたのを覚えています。

協会の企画委員をさせていただいている今、「もし私が学生の立場だったら、どんな企画を望むだろうか」と想像しながら会議に参加しています。そして、たくさんの思いを抱えながら、それでも頑張っているあなたを応援するために、大人の私達に何ができるだろうかと委員の仲間と考えているところです。

（京都市ユースサービス協会　企画委員）

［表紙の花］
ボケ（木瓜）……バラ科の落葉低木。庭木として親しまれる。実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜（もけ）」から「ぼけ」に転訛したとも言われる。原産地：中国大陸。

Youth Symposium ユースシンポジウム

若者とつくる地域 仕事 学び

ユースシンポジウム2012「若者と共に生き方をデザインする」

山科青少年活動センター　ユースワーカー　上原裕介

今回で13回目となる「ユースシンポジウム2012」は、さる12月1日、中京青少年活動センターで「若者と共に生き方をデザインする」をメインテーマに開催しました。これは、子ども・若者育成支援推進法の施行に伴い取り組みが進められてきた子ども・若者総合支援事業の蓄積も踏まえ、ネットワーク型支援の構築を意識した内容になりました。

集まったおよそ80人の参加者を前に、京都市子ども・若者支援地域協議会を代表して京都市子育て支援政策監の久保宏氏が「若者支援の取り組みの交流を」と開会挨拶をしました。

基調講演では佐藤洋作氏が「若者の立場に立って支援を行うということは」と切り出し、現代の若者を取り巻く社会的状況について問題提起しました。若者の雇用問題の背景には、雇用の流動化政策の影響や、いわゆる「ブラック企業」のような過酷な働かせ方などの問題があると指摘し、若者は「働かない」のではなく「働けない」のだと訴えました。さらに社会の評価的まなざしや他者との応答関係・承認の欠如にさらされ、先行きの希望が見えなくなってしまった若者たちにとって、ベースキャンプとしての居場所がもっとも重要であると強調しました。

これを受けたパネルディスカッションでは、まず中西新太郎氏が、厳しい自己分析とアグレッシブなテンションで就職活動を勝ち抜いた先にある「フツー」の生き方も、いま大変な状況に置かれていると紹介しました。そして、それでもこの社会で生き抜いていかねばならない若者たちのサバイバルな現実に向き合い、粘り強く支援していくことが必要だと指摘しました。竹内弘行氏は、同じ地域で生活する市民サポーターがマンツーマンで若者を盛り立て、8割の就職率を達成している「静岡方式」を紹介し、専門機関で構成されたネットワークだけでなく「地域のお節介焼き」の力を活かすことも大切だと話しました。梅原美野氏は、貧困や虐待など深刻な状態にある子どもたちが、親の生き方を引き継いでいくことしか選べない状況にあることを指摘し、生き方のモデルとなり得る他者との出会いや共感が育まれる場の必要性を強調しました。また、支援者であると同時に自らも24歳という若者の立場から、就職活動の経験やNPOで働こうと思うに至った心情も語ってくれました。

その後は、ネットワーク型支援の具体的なあり方について話題が及び、若者が支援機関にたどり着くには学校との連携や、自治体による情報の周知や、若者支援業界全体の底上げが必要だという議論がなされました。最後に中西氏が、若者に社会的コストをかけて公的支援を充実させることに対する説明やその意味についてしっかりと発信していくことの重要性を指摘し、第1部は終了しました。

基調講演
佐藤 洋作さん
（NPO法人文化学習協同ネットワーク代表理事）

パネリスト
中西 新太郎さん
（横浜市立大学国際文化学部教授）
竹内 弘行さん
（NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡 副理事長）
梅原 美野さん
（NPO法人山科醍醐こどものひろば）

ユースシンポジウム「若者と共に生き方をデザインする」分科会

分科会A

つながりの中に生きる若者生き方デザイン

バネリスト
中西新太郎さん（横浜市立大学教授）
熊澤真理さん（京都若者サポートステーション）
岡本美香さん（学習障がいをもちながら社会と向き合っている若者）
鈴木俊樹さん（京都府立鳥羽高校定時制卒業・現在プログラマーを目指している職業訓練校生）

パネリストの若者から、人とつながったことで、進路を切り開くチャンスを得た経験が話されました。参加者からはチャンスを受身的に待つのは不安や恐怖を感じるという声が出されました。自分から話しかける勇気、自分が変わるタイミングやチャンスは誰にでもあるので、見逃さないようにする準備をしておくことが大切なのではないかと話し合われました。

（南青少年活動センター　品田真孝）

分科会B

現代の生きのび方 ― 大人への移行期時代をふり返って ―

コーディネーター
二井弘泰さん（京都府立朱雀高校教員）
ゲストスピーカー
河原林孝輔さん
池島愛子さん
吉田真理さん
（各 京都府立高校卒業生）

20代の若者3人が自身の10代をふり返り、大人への移行に必要な支援のあり方を考えました。不登校からの回復や、親兄弟の不安定な家族関係の中で健康的な力を蓄えた過程、障がいの当事者の生き方など。その中で「不登校時代のことを語っても一生背負って生きていくとも思わない」と語られ、それこそが生きていく力なのだと感じることができました。

（山科青少年活動センター　玉村　文）

分科会C

力ある生き方 ～分岐点で出会ったもの～

コーディネーター
砂連尾理さん（振付家・ダンサー）
ゲストスピーカー
川崎 歩さん（振付家・映像作家・ダンサー）
東 好美さん（造形作家）
河瀬仁誌さん（劇団2TON代表・脚本家・演出家・演劇W・Sファシリテーター）

アーティストとして活躍しているゲスト3人のトークセッション。葛藤や壁を乗り越えてきた「原動力」―アーティストが分岐点を迎えた時に感じた「フツー」に対する違和感や「好きなこと」に対する想い。それらを繋いでゆくゲスト3人の生き方からは、自分を見つめ、身体を整え、自分らしい豊かさを育んでいく力強さが感じられました。

（東山青少年活動センター　酒井彩乃）

分科会D

どんな生き方も〝あり〟です

ファシリテーター兼バネリスト
嘉村賢州さん（NPO法人 場とつながりラボHome'svi代表理事）
バネリスト
木村響子さん（株式会社基地計画　代表取締役社長）
吉田美奈子さん（まなび8カフェ　主宰）
田村篤史さん（キャリアデザイナー）

バネリストの4人は模索の果てに「わが道」を歩んでいる方々です。自らが居心地よく、創造的な「コミュニティ」を開拓し、かつ生計をたてていくためには何よりも行動力！　と説かれました。参加者16人は就活中の若者から年配の方まで幅広く、大変刺激を受けたようです。考える素材が提供できたと思いました。

（伏見青少年活動センター　岡本昌也）

分科会E

若者の生き方と支援のあり方

バネリスト
竹内弘行さん（NPO法人青少年就労支援ネットワーク　静岡 副理事長）
梅林秀行さん（NPO法人京都ARU理事／事務局長）
河田桂子さん（NPO法人若者と家族のライフプランを考える会 理事長）

若者と支援者がともに「若者の生き方」と「支援」のあり方を考えました。各バネリストが入った小グループ討議では、若者の立場から、家族の立場から、支援者の立場から、それぞれ「将来に向けての不安感」「家族以外の誰かの力」「みんなに居場所と出番を」「自己分析は就活のときのみ必要なのか」などの意見交換がされました。

（子ども・若者支援室　竹久輝顕）

5つの分科会とも今の若者に関心の深いテーマでしたが、参加者の多かった分科会Dに飛び込みました。最初にパネリスト4人それぞれの「生き方」が紹介されました。その中で、一度は会社員として就職あるいは内定していたが、現在は起業したり、フリーで活動している点。また、人と人とが繋がるコミュニティ作りをしている点が4人の共通点でした。

紹介後はパネリストごとのテーブルに参加者が分かれて座り、さらにワールドカフェ方式でテーブルを移動。それぞれのテーブルで話したことを共有し、語り合いました。中では、今の若者は特に働き方において生き難いのではないか。どういう働き方、生き方をすればいいのか。またコミュニティを持つと生き易さに繋がるのか。繋がりをもつことでどうしていくか議論されました。

最後のパネリストによるトークでは、コミュニティを作ることよりも継続することの難しさ、人と繋がるためにまずは口に出していくことなどの意見が出されました。ファシリテーター兼パネリストの嘉村賢州さんは「給料制じゃないので、仕事をどんどん入れてしまうんです。好きなのに仕事に追われてしまっている。会社で働くことととどっちが正しくて正しくないということではないです。今の働き方で安定した休みや給料を生むことができたらいいなと思っています。模索しながら、社会にも提案できたらいいなと思います」とNPO法人代表理事としての働き方について、現状と展望を話されました。

会社員、主婦、家族がひきこもり、学生……などさまざまなバックグラウンドをもつ参加者たちは、生き方のヒントや自分が大切にしていることを考えるきっかけの時間となったでしょう。パネリストもまた、新しい気付きを得ることができたのではないでしょうか。

（京都若者サポートステーション　冨田祐子）

若者と共に生き方をデザインする（基調講演より）

佐藤洋作（NPO法人文化学習協同ネットワーク代表理事）

1 自己責任イデオロギーが若者を立ちすくませている

不登校や中退、あるいは学業不振など「教育からの排除」のプロセスは、若者たちの内面に「仕事からの排除」を自由な競争の結果として受け止める心情（自己責任イデオロギー）が醸成されており、それが若者たちを立ちすくませている。立ちすくみは意欲の問題ではない。若者は「働かない」のではなく「働けない」のである。また雇用状況の悪化で経済的、客観的条件によって「働けない」状況が生まれてきており、経済の貧困が精神の貧困を生み出し、精神の貧困が経済の貧困を増幅させていくという悪循環が生まれている。

2 居場所をベースキャンプとした学び直し

「居場所」は、競争的な他者関係を共感的・共生的なものへと組み替えながら内なる自己責任論を溶かし、社会に参加するうえでの他者や、さらには自分自身への基本的信頼を回復していく学び合いの場である。若者たちは仲間と共にパン屋の実践共同体に参加しながら、語り合い、出会い、向き合いながら失われた青年期を取り戻していく。

若者は自分も参加する場（関係）からの承認によって社会への信頼を、そして自分自身への信頼を回復していくことを通して、生きて働いていくことの方向感覚のようなものを獲得していく。

3 若者とつくる地域、仕事、学び

若者が社会（仕事）へと近づいていくためには、地域ニーズに対応した生産やサービス活動に従事し、人々に感謝されることによって自己の有用性を自覚できる機会が必要である。若者は地域のさまざまな人々と協働的関係をむすびながらつくりあげる生活そのものに導かれ、自らを育て上げる学習主体になっていくことができる。

4 若者のだれもが人間らしく生き、働くことのできる、社会づくりの主体に

若者を社会（仕事）へとつなぐためには、その移行そのものを個々の責任に帰させるのではなく、職業訓練や仕事探しの過程そのものを協働の営みとして乗り切っていく機会を提供しなければならない。若者自立支援とは、個々の若者に既存の社会への一方的な適応を迫る支援ではなく、だれもが人間らしく生き働くことができる社会の再構築にむけて、若者がその形成主体へと成長していくための教育的、福祉的なサポートに他ならない。

■ プロフィール

1947年島根県生まれ。
学生時代から子どもたちの学習支援にかかわる。
90年代に不登校の子供のための居場所づくりを進める。
2000年に入り、国の若者の支援政策にも参加。
著書「居場所づくりの原動力」「ニート・フリーターと学力」他多数。

わっとわーく

新大宮みんなの基地

●ミッション

若者が地域に集まる居場所をつくることで、地域や若者との間に新しいつながりが生まれることを目指しています。

●設　立

より多くの若者たちが新大宮商店街に集まれるスペースを作ろうと、2010年4月に「新大宮みんなの基地」がオープンしました。若者が少なくなった商店街で、若者の活動拠点の提供や地域とのつながり作りなどをしています。現在、企業や事務所が共同で入居するシェアオフィスという形態を取りながら、イベントや会議等の利用を通して多くの人が集まるコミュニティスペースとして運営しています。2011年6月に、株式会社基地計画を設立。2012年9月には「新大宮みんなの基地」に続いて新しい町家空間「ku-rin」を開設し、着々と場を広げています。

●代　表

木村響子

●わたしたちの活動

気軽に若者が集まる、誰もが楽しめるイベントを行っています。例えば、参加者が食べ物を持ち寄って、一緒に食事をする企画もしています。

また、若者がやりたいことを実現できるように、活動場所の提供やイベント企画、プロジェクト運営のサポートを行っています（NPO法人寺子屋共育轍と共催している「寺子屋」、仕事に対する価値観づくりを応援する「ジョブサラダ」など）。

その他に、新大宮商店街にあるお店の食材で商店街の魅力を発信する、月に一度のコミュニティバール「きちばる」や商店街、お寺、地域の人たち、学生を巻き込んだ「そらたね祭」を開催。「そらたね祭」は、毎年10月下旬に実施し、今年で10年目を迎えました。新大宮商店街を舞台に、若者自らが企画したワークショップや太鼓演奏、商店街パレードなどでにぎわっています。

このようなイベントを通して、多くの人が集まり、家庭、職場や学校に続くサードプレイスとしての新しいつながりやさまざまなコミュニティが生まれるようなきっかけづくりとしています。

今後、若者目線で、地域の魅力を発見し、それらを集めたマップ作りにも取り組みます。

住　所　〒603-8217　京都市北区紫野上門前町21　メール　kichi.info@gmail.com
Facebook　http://www.facebook.com/minnanokichi
Twitter　https://twitter.com/minna_kichi

やったぞ！ 畑のイレブン

就労のゴールは近い
～野菜づくりから仕事に近づく14週間～

京都若者サポートステーション　総括コーディネーター　松山廉

前号で報告しました中間的就労事業「野菜づくりから就労に近づく」は12月末で終了しました。11人の参加者が、開墾から種蒔き、そして収穫から販売を経験しました。9月初めから毎週火・木・土曜日に農作業、金曜日は研修と週4日間のプログラムを3か月以上、途中リタイヤもなく無事終わりました。

農薬・化学肥料を全く使わず、一つ一つ慎重に虫取りをしたり、手づくりの有機肥料を作物の周囲にていねいにまいたり…。雨の日も風の日も休まず作業を続けました。季節が変わると害虫たちもどんどん変わり、比較的取りやすいハムシだけでなく、日中は土の中にいてなかなか捕殺できない夜盗虫も出てきて、対応に苦労しました。手間をかけた甲斐あって、徐々に畑の緑が増え、参加者いわく〝まるでサラダバー〟。まさにその表現通り、土が見えにくくなり、黄緑、深緑、赤、紫とさまざまな色の葉で覆い尽くされていきました。

販売計画の最初は小松菜や菜花、壬生菜といった葉物を収穫し中京ほか、北、伏見の各青少年活動センターのロビーなどで販売しました。

虫食いが目立つ葉物だったことから値段を安く設定しましたが、すぐに完売。講師のモリノメグミ代表の川久保雅悦さんから「無農薬栽培ですごい手間暇がかかっている。もっと高く売らないと！」のアドバイスで少し高値を付けました。買った人からは「野菜が生きているって感じがしたよ！」とか「虫がついても気にならない。とてもおいしいからまた売ってほしい」などと励まされました。販売したお金は参加者みんなで分け合いました。費やした時間や苦労に見合わない額でしたが、働いた喜びにつながったと思います。

事業が中盤になると、栽培や販売計画で参加者同士の意見の違いも出てきて、それをどう一致させるか悩みました。ただ農作業を体験するだけでなく、他人を意識しながら働くことの難しさも体験したと思います。

そのすべてが、参加者のこれからの人生のヒントになることでしょう。

この事業には多くの地域若者サポーターが彼らと一緒に汗をかいてくれました。一緒に農作業をするだけでなく、時に販売や宣伝を手伝ってもらったり、野菜の調理法をおそわったり、人生相談にものっていただき、温かい気持ちで寄り添ってくれました。

参加者の皆さんは非常にていねいに、根気強く、黙々と作業をしていました。休憩時間になっても〝一区切りつくまで〟といって休もうとしないくらいです。暑さ続きの休み日には仲間とメール連絡しながら畑の水やりにくる姿も見受けました。そして、この事業を通じて「なりたい自分に近づいている」「自分にはできないと思っていたのに、実はできることに気付いた」ようです。協働作業の苦しさ楽しさ、仲間意識の大切さを知って就労への自信につながると思います。

最後に農業だけでなく、いろいろと指導していただいた川久保さんには本当に感謝しています。私たちの実験的な試みにつき合っていただいたうえに、参加者と一緒に喜び、考え、時に苦しみを体験していただきました。そのおかげで参加者だけでなく私たちワーカーにとっても意味ある時間を過ごすことができました。

ありがとうございました。

本格始動！地域若者サポーター

サポーター活用事業担当チーフ　大熊　晋

はじめに

地域若者サポーターとは、自立や就労に困難を抱える若者を支援するための、所定の講座を修了された市民ボランティアの皆さんです。平成20年度（第1期）から23年度（第4期）までの4年間にわたり養成講習会を開催し、合計195名の方が登録いただいています。顔ぶれは、元教員やカウンセラーなど専門的知識をお持ちの方もおられますが、多くは〝近所のおっちゃん・おばちゃん〟といった親しみやすい方々です。

サポーターの役割と体制

当初は、「身近なところからできること」や「相談機関へのつなぎ役」を含め、「各自が無理のない範囲でできることに取り組んでください」という形でスタートしたので、自立に関して悩みを持つ若者やそのご家族に知り合いのいる方が、個人的に情報提供をしていただくことが多かったかと思います。

毎年2回実施しているサポーターの交流会で徐々にサポーター同士の繋がりが生まれ、3期の養成講習会終了後には、5つの地域ブロックを立ち上げて、サポーターの活動体制を整えました。翌年には第4期養成講座を修了したメンバーも合流し、ブロックごとに「どんな取組をしようか」と検討を重ね、いくつかの取組がスタートしました。平成24年度からは、各青少年活動センターにサポーター担当者を置き、「自立に関して困難さを抱える若者を支援する居場所事業の充実」と「世代間・異年齢間交流の機会作り」という切り口で、各ブロックとの協働した取組を検討・実施しています。（別表）

また、これらのブロックとしての取組に限らず、それぞれの資格や特技を活かしてセンターやサポートステーションの事業に協力していただいているケースもあります。若者を支援する中で、サポーター自身も新たな発見や学びを得ながら、さまざまな形で若者に関わっていただいています。

こうした動きの中から、サポーター同士の横のつながりも徐々に生まれ、「じゃあ、今度そっちをのぞきに行ってみるわ」、「そっちのプログラムをこっちでもできない？」というような、ブロックを横断する動きも出てきました。

最後に

自立や就労に困難を抱える若者を社会全体で支援しよう、とスタートしたこのサポーター制度。ただ、現在、活動されているサポーターの人数はまだまだ少なく、皆さんの力を十分に引き出しきれていないのが実情です。それでも、サポーターの中には、「こんなことをしたらどうか」という思いをお持ちの方も多くおられると思いますし、個別にお話すると、いろいろな思いを話していただけます。現在の活動は、青少年活動センターでの若者の居場所づくりに関連した取組が中心ですが、次のステップとしては、自立や就労に向けた部分でサポーターの方々にどのように関わっていただくかが重要だと考えています。

今後は、従来のブロックとしての活動と並行して、サポーターの皆さんのご経験やネットワークを活かした形で、より多くの方々に関わってもらえる形を構築できれば、と考えています。

サポーターのコメント

若い方々の質問について考えるのは、私にとって新鮮です。サポーターとしての活動は、私の生活に小さい楽しい変化をもたらしてくれています。（何でも質問BOXの回答役／4期：谷岡さん）

11名の若者が元気に黙々と農作業する姿を頼もしく感じながら、新しい出会いを楽しませてもらっています。（野菜づくりから仕事に近づく就労支援／3期：岸本さん）

物事をあらゆる方向から深く考えることで、生きる力をもらっているのは、支援している私自身だと気づいた。支援をさせていただいて、ありがとう。感謝の気持ちを伝えたい。（学習支援／4期：村松さん）

事業所	取組名	内　容
北	アフタヌーン亭★	おしゃべりやゲームなど、のんびり過ごせる“しゃべり場”
	料理の会	リクエストにより、買い出し、調理、試食までをサポート
	ｅａｔ＊ｍｏクラブ ～秋のバランスごはん～	管理栄養士資格を持つサポーターが、食の栄養バランスの大切さについて指導
	伝記作成プロジェクト	青少年ボランティアが作成した伝記の添削アドバイス
	野菜づくりから仕事に近づく	就労支援プログラムで、農作業をサポート
中京	コラージュ体験★	対人関係に少し不安のある若者が、コラージュを楽しむ場
	赤レンガカフェ★	サポーターと若者とが交流することのできる空間づくり
	何でも相談・何でも質問ＢＯＸ	質問ボックスに寄せられた若者からの相談や質問に回答
東山	ヒガシヤマＤＥものづくり	居場所づくりとして、創造工作室をフリースペースとして開放
山科	カフェ★	センター利用の中高生年代の若者たちとの交流スペース
	浴衣の着付け体験★	地域の祭りに向けた、中高生向けの浴衣の着付け体験
	ロビープログラム（将棋）	ロビーを中心に将棋で若者と交流する場の設置（準備中）
下京	ロビープログラム（おっちゃんの会）	“若者と本音で話せる関係”を目指した交流スペース
	アジプロ（事務作業体験）	センター事務所での電話対応実習への協力
南	アジプロ（喫茶体験）	ロビー喫茶の営業（就労支援事業）を行なう若者への協力
伏見	はじまるさろん★	ひきこもりやニートなどに関して市民が理解を深める場づくり
サポステ	学習支援	元教員のサポーターが個別指導（学びなおしの場）

★印はサポーターの各ブロックが主催する取組、それ以外はセンター主催事業

青少年活動センターのページ

子ども・若者支援室 支援コーディネーター　竹久輝顕

ユースサービスと子ども・若者総合支援

3年目の子ども・若者総合支援

京都市ユースサービス協会が「子ども・若者総合支援」に取り組み始めて3年目を迎えました。2010年4月に施行された「子ども・若者育成支援推進法」に基づく京都市の取り組みとして、同年10月に「子ども・若者総合相談窓口」「子ども・若者支援地域協議会」が設けられ、ユースサービス協会は地域協議会の指定支援機関として、子ども・若者総合支援に力を注いできました。

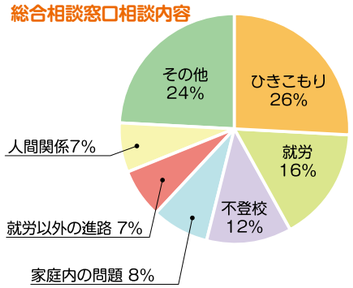
2年間の相談件数と内容

2012年9月末までに総合相談窓口で受け付けたケースは、ユースサービス協会中京青少年活動センターが521件、教育相談総合センター（こどもパトナ）が168件、合計689件でした。また、子ども・若者支援室に引き継がれたケースは90件あり、支援コーディネーターが継続した支援を行ってきました。

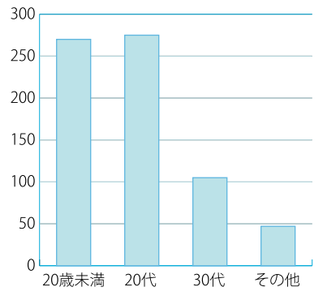
相談窓口には「家から出られない」「働きたいけど、うまくいかない」「人とかかわるのが苦手」など実に多様な相談が入ってきます。全く同じ相談はなく、相談される方の思いや状況を伺い、困っていることは何か、そして解決していくために適切な支援先・情報は何か、ともに考えながら関わっています。

支援コーディネーターに引き継がれるケースは、ひきこもっている若者の相談が半数以上あり、相談窓口では10代・20代の相談が多いのに対し、20代から30代の割合が多くなっています。中には長年自宅中心の生活をしている人や開設当初から関わり続けているケースもあり、直面する困難さに向き合い克服していくことは難しく、時間が必要だと実感させられます。それでも新しい一歩を踏み出していく姿や試行錯誤しながら課題を乗り越えていこうとする姿を見て、その積み重ねが先につながっていくのだろうと信じ、行きつ戻りつする状況にもつきあいながら、ともに進んでいっています。

総合相談窓口相談内容



相談窓口年齢別相談数



ユースサービスとしての子ども・若者総合支援

相談にやってくる子ども・若者とその家族らは多様な困難さに直面しています。その困難さを見ていくと、解決への支援ばかりに偏ってしまいそうになります。とはいえ、子ども・若者は、同時に大人への成長段階にあり、本来はその過程でさまざまな経験を積んでいく必要があります。そこで、豊かな人とかかわる経験や、グループ体験などが少なかった若者には、さまざまな経験を積めるように支えていくことも数多くあります。そこで協力をお願いするのが青少年活動センターやNPO等民間団体の取り組みであり、支援を単体で行うのではなく、コーディネートしながら段階に応じた関わりを意識しています。問題を解決する過程を通して、子ども・若者自身が経験を積んでいく、乗り越える力をつけていく、そういった事が総合的な支援につながるのではないかと考えています。これからも相談に来られる方の思いや抱える困難さと向き合いつつ、一層他機関とも連携していきたいと考えています。

「子ども・若者総合相談窓口と子ども・若者支援室」

相談窓口は、30代までの子ども・若者及びその家族の相談を受け、適切な機関の紹介や情報提供、ときにはアドバイスなどを行っています。また、支援室では6人の支援コーディネーターが、困難さを抱える子ども・若者に対し、関係機関やNPO等の民間団体とも連携・コーディネートをしながら、継続的な支援を行っています。

NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業

2011年10月、子ども・若者総合支援事業が2年目を迎え、支援活動の一層の拡がりを目ざして、NPO等民間団体の支援事業を公募し、優れた事業への助成を行うことになりました。平成23年度は8団体、24年度は新規3団体を含む10団体の参画を得て、①ピア交流事業（居場所事業）、②社会体験事業、③安心ジョブチャレンジ事業（初期型ジョブトレーニング）の3分野で事業展開しています。これまで個別分散的だったNPO等民間団体の活動が、当該事業を通して互いに認知・連携し合うと共に、支援室においてもこうした団体と連携した支援の拡がりが見られました。また、支援活動を市民や他の支援者に広報すべく「エフエム京都」を通したラジオ放送等にも取り組んでいます。

ひきこもり等、社会不適応に苦悩する多くの子ども・若者たちやその家族には、こうした支援の繋がりと拡がりによって選択肢が増え、より「切れ目のない支援」「すき間のない支援」になればと考えます。

（子ども・若者支援室 支援コーディネーター　古田義久）

イラスト：厚焼　サネ太

ユースかわら版

事業レポート

農業にふれよう。

北青少年活動センターでは、「農業にふれよう。」の10月20日(土)の活動で、今年の新米を味わいました！マヨネーズも手作りし、みんなで育てたオクラも卵と調理して食べました。「ごはんをみんなで食べ、たわいのない話をしながらのんびりとした時間をすごすことができて、疲れも癒えたような気がしました」という感想もありました。また、講師の川久保さんからお米の栄養学などのお話もしてもらい、食への理解も深まりました。

「アジプロⅡ」実施しました

下京青少年活動センターでは、京都若者サポートステーションと合同で「アジプロⅡ（あたまとからだではたらくことをじっかんするプログラム）」を９～11月の間に７日間、３名で実施しました。センターの事務所を使っての職業体験事業で、最初２回は事務所で働くための研修を行ない、４回の事務体験とその日のふり返りを経て、最終回は全体のふり返りという内容です。最後のふり返りでは６回の研修・体験を通して得られた自身の強みや課題を整理し、参加者それぞれの次のステップを具体的に考えることができました。

「やませいまつり」開催しました！

11月４日(日)、毎年恒例の「第11回ぐるっとふれ愛まちフェスタin山科」の一環で「やませいまつり」を開催しました。山科の中学生も当日ボランティアで大活躍！ 地域の方から「カレーおいしかったよ」と褒めていただき喜んでいました。立命館大学のインターンシップ生が企画したフェスタ全体のスタンプラリーも大盛況で、地域の活性化に一役買うことができました。

表現活動へのお誘い～からだではなそう～

東山青少年活動センターでは、知的障がいをのある青少年の余暇活動「表現活動へのお誘い」の前期プログラムを５月～９月に２グループ、各５回ずつ実施しました。からだとからだを触れ合わせたり、楽器でリズムをとったり、踊ってみたりと様々な内容の表現活動を行ないました。活動終了後、ご家族からも「終了後いつもより笑顔を見ることができました」、「人に興味がでてきて、人と何かをしたいという様子が多く見られるようになった」と反応があり、活動を通して変化がみられました。11月から開始した後期プログラムでも、活動を通して参加者がコミュニケーションを深めることの楽しさを感じてもらっていると思います。

VoM's ジャンパーできました！

南青少年活動センターで、毎月第４土曜日の周辺清掃、センターのイベントや地域のお祭りなどで活躍するボランティア「VoM's」のスタッフジャンパーが完成しました。青のウインドブレーカーに「VoM's」のロゴが目印！「みなみを　みんなで　もりあげよう」を合言葉に活動中です。「みんなで集まって何かしたい！」、「イベントを企画してみたい！」、「仲間が欲しい！」などの想いを持った青少年を募集中です。ひとまず１回だけというお試し参加も大歓迎です。気になった方は、ぜひお問い合わせください。

映像で「京都賞」受賞！

伏見青少年活動センターメディアパブスタジオに、また朗報です。３月の地域情報部門賞に続いて、10月に開催された京都映像アワードでも、動画作品「ある戦犯の記憶」が「京都賞」を受賞しました。この作品は高校生を含む５人の若者が87歳の老人から戦争体験を聴き取り、映像に仕上げたもので、今回は約200点のノミネート作品の中から選ばれました。受賞作品をぜひyoutubeでご覧ください。
http://bit.ly/N3rUlR

健康フィエスタ2012

今年で３回目となる伏見青少年活動センターの「健康フィエスタ」。11月17日(土)、ボランティアを含め120名を超える参加者で賑わいました。伏見保健センターの全面協力により、２階では性感染症・HIV検査、X線撮影、健康診断などを通訳つき・無料で実施したほか、健康相談・在留資格に係る相談も受けました。４階ロビーでは「バザール･カフェ」によるエスニック料理のブースや、バンド演奏･チャンバラや外国人グループによるフラダンスなどのパフォーマンスも行われました。恋愛・性に関する日本と外国の比較や心の健康などをテーマとしたワークショップもあり、国際色豊かで有意義な催しとなりました！

事業案内

「北こみフェスタ」を開催します！

３月７日(日)、北青少年活動センター全館を使って、若者が北区身体障害者連合会などの地域団体と一緒にイベントをします☆フェスタを一緒に盛り上げてくれる青少年ボランティアも募集しています♪ 当日は、どなたでもご参加いただけます。ぜひ、この機会にお立ち寄りください！

「伝統食カフェ」が期間限定でオープン！

昨年度も大好評だった「伝統食カフェ」が再びオープンします！日本の伝統的なメニューを全て手づくりしています。食材や調味料にもこだわって作っています。体に優しい食事を味わいにぜひお越しください。１月18日（金）、24日(木)、28日(月)の11時30分～17時、場所は伏見青少年活動センターの「つながりCafé」です。

新年みなみまつり

１月５日(土)の14時～17時に南青少年活動センターでは、「新年みなみまつり」を開催します。もちつきコーナーでは、おもちをいろんな味でご提供します♪ また、最近ではあまりしなくなった、コマ回しや福笑いなどが無料で楽しめるお正月の遊びコーナーも設ける予定です。お子様からお年寄りまで地域の方と一緒に日本のお正月を楽しみませんか？ どなたでも参加できますので、お気軽にお越しください。

「ライブキッズ vol.23」右京で開催！

今年で23回目を迎えるダンスとミュージックのイベント、ライブキッズ。今回は初めて京都市右京ふれあい文化会館で開催します。３月16日（土）の前夜祭と17日（日）の大会の２日間開催です。１月26日（土）と27日（日）には新風館でダンス部門の選考録画会を兼ねたプレイベント「LIVE KIDS in 新風館」もあります。ぜひどちらもお越しください！詳細は、ライブキッズのホームページをご覧ください。

「ユースサービス」読者アンケート募集

当協会手作りの季刊情報誌「ユースサービス」が４年目を迎えました。“若者を考える、若者と考える”をテーマに若者の現状を探りながら問題を提起し、若者自身や広く京都市民の関心をと編集スタッフは考えています。2009年10月の創刊号から今回14号までの掲載記事で、あなたの印象に残った記事、こんな記事を読みたいといった感想や、ご意見をお寄せください。アンケートにお答えの読者の中から協会の記念品をお贈りします。皆様のご協力をお待ちします。

応募方法 アンケート用紙の様式は問いません。ハガキでも結構です。**1月31日（木）**までに**郵送**もしくは**メール**でお送りください。

郵送 604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262 京都市中京青少年活動センター内「ユースサービス」編集室あて

Mail 協会ホームページ（http://ys-kyoto.org/）のお問い合わせフォームより

ユースサービス
VOL.14
2013年1月1日発行

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。
家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

7つの青少年活動センター

東山青少年活動センター
住　所：〒605-0862　京都市東山区
清水5丁目130-6　東山区総合庁舎2階
ＴＥＬ：075-541-0619
ＦＡＸ：075-541-0628
URL：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

南青少年活動センター
住　所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町 72
ＴＥＬ＆ＦＡＸ：075-671-0356
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/minami/

北青少年活動センター
住　所：〒603-8165　京都市北区紫野
西御所田町 56　北区総合庁舎西庁舎３階
ＴＥＬ：075-451-6700
ＦＡＸ：075-451-6702
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/kita/

山科青少年活動センター
住　所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町 42
ＴＥＬ：075-593-4911
ＦＡＸ：075-593-4916
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

伏見青少年活動センター
住　所：〒612-8062　京都市伏見区
鷹匠町 39-2　伏見区総合庁舎４階
ＴＥＬ：075-611-4910
ＦＡＸ：075-604-4910
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

中京青少年活動センター
住　所：〒604-8147　京都市中京区東洞院通
六角下ル御射山町 262
ＴＥＬ：075-231-0640
ＦＡＸ：075-231-1231
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

下京青少年活動センター
住　所：〒600-8871
京都市下京区西七条北東野町 90
ＴＥＬ：075-314-5636
ＦＡＸ：075-314-5640
ＵＲＬ：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

開館時間　平日：午前 10 時～午後９時
日祝：午前 10 時～午後６時

休館日　水曜日・年末年始
（12/29 ～ 1/3）

ボケ

発　行
公益財団法人　京都市ユースサービス協会
〒604-8147　京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町 262
京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681　　fax：075-231-1231
E-mail：office@ys-kyoto.org
HP：http://www.ys-kyoto.org
印　　刷：株式会社谷印刷所
デザイン：自然堂株式会社